

まちづくり交付金 事後評価シート  
石山駅周辺地区

平成19年1月

滋賀県大津市

## 様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	滋賀県	市町村名	大津市	地区名	石山駅周辺地区
計画期間	平成16年度～平成18年度	まちづくり交付金交付期間	平成16年度～平成18年度		
モニタリング実施時期		事後評価実施時期	平成18年7月～平成18年12月	フォローアップ実施時期	平成19年4月～平成20年3月

1) 事業の実施状況	当初計画どおり実施した事業	市道南2102号線道路拡幅事業、市道幹1044号線地下道壁面改修事業、市道幹1044号線(東海アンダー)、市道幹1103号線整備事業、JR石山駅北口駅前広場他整備事業、JR石山駅南口駅前広場他整備事業
	当初計画から変更した事業(変更した内容)	石山湖岸線交通結節点改良事業(追加)、馬場大江線基本構想策定事業(追加)、景観形成地区実施計画策定事業(実施時期の見直し)
	変更した理由、目標・数値指標への影響等	石山湖岸線交通結節点改良事業：石山駅交通結節点改良整備に合わせた接続道路環境の改善計画の追加(目標・数値指標への影響なし)・馬場大江線基本構想策定事業：石山駅交通結節点改良整備に合わせた周辺道路環境整備ネットワークの調査、検討の追加(目標・数値指標への影響なし)・景観形成地区実施計画策定事業：地元との調整により実施年度の見直し(目標・数値指標への影響なし)

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
		単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	JR石山駅の乗降客数	人/日		×				駅周辺の工場勤務者の減少などの社会情勢もあるが、駅総合化やバリアフリー化及び総合交通施策などにより、今後の利用者の増加は見込める。
指標2	JR石山駅利用者の満足度	%						JR石山駅周辺の環境整備や駅舎バリアフリー化及び新規店舗の出店により、駅利用者の利便性、快適性が格段に向上した。
指標3	石山周辺への観光客数	万人/年						現時点ではハード事業との連携による効果は薄かったが、今後の関連事業の進捗や積極的な観光情報の提供により、観光客数の増加が期待できる。
指標4								
指標5								

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
		単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
その他の数値指標1	京阪電車とJRの相互乗換え時間	分	3	H15		1	京阪・JRの総合駅化により、大幅に乗り換え時間の短縮が図れた。	
その他の数値指標2	京阪石山駅の利用者(乗車)数	人/日	2,714	H15		2,747	京阪・JRの総合駅化により、大幅に乗り換え時間の短縮とバリアフリー化により利用者数の増加につながった。	
その他の数値指標3								

4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	
-------------------------	--

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
	モニタリング			予定どおり実施できた		
予定していなかったが実施した						
予定したが実施しなかった・できなかった						
住民参加プロセス			予定どおり実施できた			
			予定していなかったが実施した			
			予定したが実施しなかった・できなかった			
持続的なまちづくり			予定どおり構築できた			
			予定していなかったが構築した			
			予定したが構築しなかった・できなかった			

## 様式2 - 2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

石山駅周辺地区(滋賀県大津市) まちづくり交付金の成果概要				
まちづくりの目標	産業機能集積、歴史観光振興および大津市南部、東部エリアの連絡駅としての交通拠点整備	まちづくり交付金の代表的成果	JR石山駅利用者の満足度(%)	10(H16) 74(H18)
			石山周辺への観光客数(万人/年)	126(H15) 127(H18)
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<p><b>【観光客の誘致強化、JR石山駅周辺の快適性・利便性の強化向上】</b>            全国に誇れる歴史的資源(石山寺、瀬田唐橋など)を活かして観光客増を実現し、また、駅周辺の快適性・利便性を向上させるためには、このたびの事業に加えて、石山駅周辺の都市計画道路等について整備計画の延伸を図り、公共交通機関(バス等)の総合交通施策を講じ、円滑な運行や歩行空間の十分な確保に努め、快適性・利便性を一層強化する必要がある。また、ソフト面では、地域の人材を活用した観光ボランティアの育成、琵琶湖と歴史を実感させる回遊ルートの設定やグルメマップの作成など、更には周辺企業との連携を強化することによって、積極的にきめ細かい観光情報の提供を行うとともに、ハード整備を活かした地元商店街等の継続的なまちづくり活動により、商業振興を進めることが求められる。</p>			